

バリュー・カンファレンス 2026 (第 59 回 VE 全国大会)

『VE／VD論文』募集

※VD : Value Design

◆ バリュー・カンファレンス 2026 (第 59 回 VE 全国大会) ◆

- 会 期 : 調整中 (2026 年 10 月～11 月に開催予定)
- 会 場 : 未定
- 主 催 : 公益社団法人 日本バリュー・エンジニアリング協会

バリュー・カンファレンス (VE 全国大会) は、VE のますますの普及・活性化と技術水準の向上を主な目的に、毎年開催しております。

その開催にあたり本会では、「VE／VD論文」を募集いたします。

『論文審査部会』における審査の結果、入選となった論文は、大会で発表いただきます。バリュー・エンジニアをはじめ、企業や公共機関の方々、研究者、コンサルタント、学生など、多くの方々からのご応募をお待ちしております。

お問い合わせ／お申し込みは

公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会

〒154 - 0012

東京都世田谷区駒沢 1 - 4 - 15 (真井ビル 6F)

TEL. 03 - 5430 - 4488 / FAX. 03 - 5430 - 4431

URL : <http://www.sjve.org> / E-mail : conf-paper@sjve.org

～『VE／VD論文』募集要項～

1. 論文テーマの一例

- * ○○分野へのVE／VD適用事例の効果及び今後の可能性
- * ○○業におけるVE／VD適用事例にもとづく○○に関する考察
- * ○○製品の開発VE／VDに応用した○○手法の効果に関する考察
- * 効率的にVE／VDへの理解を深めるための研修プログラムの開発
- * VE／VDと○○手法の融合活用に関する試行と考察
- * VE／VD実践における○○の課題に対する効果的な解決策
- * VE／VDと○○に関する実態調査に基づく考察
- * VE／VD成果拡大のための推進体制構築
- * 公共分野における価値向上の事例と波及効果 など

2. 応募方法

- (1) **申込の方法** 次の4つを本会事務局に E-mail 又は FAX でお知らせください。
①論文テーマ ②論文要旨(150字～200字) ③執筆者氏名(個人名のこと)
④連絡先(会社名、所属・役職名、所在地、電話番号、E-mail アドレス)
- (2) **申込の締切** 2026年2月27日(金)
※論文要旨について予備審査を行います。
予備審査を通過した方には、折り返し原稿執筆ガイド等をお届けいたします。
- (3) **本文原稿の締切** 2026年4月17日(金) 9時必着で本会事務局にお送りください。
- (4) **原稿の作成**
①A4判の白紙を使い、MS-WORDで作成してください。
②A4判1頁につき横40字、縦40行で、10頁以上14頁以内(図表を含む)といたします。
③そのまま収録いたしますので、図表も鮮明なものを見やすい大きさに本文中に挿入してください。
④MS-WORD及びPDFの2つのファイルをご提出ください。

3. 審査

- (1) 審査は、審査・認定委員会の論文審査部会が行います。
- (2) 審査では、次頁の評価項目に従い、審査します。
- (3) 審査の結果は、2026年7月中旬までに文書でお知らせいたします。
- (4) 内容のさらなる充実を目的に、「論文審査部会」から原稿の一部修正を求めることがあります。
その場合は、審査委員会の要請を尊重し、修正していただきます。
- (5) 内容によっては、論文ではなく事例または研究ノートとして「バリュー・カンファレンス2026(第59回VE全国大会)」での発表をお勧めすることがあります。
- (6) 原稿は、図表を含め一切返却できません。

4. 発表・表彰

入選論文は、「バリュー・カンファレンス2026(第59回VE全国大会)」にて執筆者自らご発表いただきます。
※発表方法につきましては、あらためてご案内させていただきます。

5. その他

- (1) 入選論文は、「第59回VE全国大会 VE論文集(電子版)」に収録いたします。また、大会の終了後に本会のホームページなどへ掲載されることもあります。
- (2) 入選論文は、選考のうえ SAVE 国際大会発表論文として SAVE International(米国VE協会)に推薦されることがあります(発表に際しての諸費用は自己負担となります)。
- (3) 学術論文としての発展が期待できると審査委員会からコメントを受けた当該論文は、日本システムデザイン学会への(洗練化後の)論文投稿を推薦致します。(ただしAcceptを保証するものではありません。)

VE/V D論文入選者（第一執筆者に限る）への優遇措置

1. 2026 年度 C V S 認定試験において、論述 2 を免除し 30 点を加算します。

※事例または研究ノートとして採択となった場合は、2026 年度 C V S 認定試験において、論述 2 に対して最大 15 点分加算します。^注

注) * 論文 2 の出来栄が 0～15 点未満の場合は、15 点加算されます。

* 論述 2 の出来栄が 15 点以上の場合は、最大 30 点になるように加点されます。

2. V E スペシャリスト認定試験において、論述 2 を免除し 20 点を加算します。

・ 2026 年度から 2030 年度の試験まで優遇措置は継続されます。

(論文入選年度含み 5 年間有効、試験不合格の場合も同様)

VE/V D論文 第一執筆者へのサポートについて

過去に V E 実践論文（または V E 研究論文）を第一執筆者として入選以上の経験がある方（論文審査委員も含めて）が、積極的に共同執筆者になることを通じて、投稿論文の質を上げて頂けることを推奨します。共同執筆者として入選した場合、C V S 資格、V E スペシャリスト資格の更新の際に必要なポイントの一部として加算できるようにしていく予定です。

● V E / V D 論文の評価項目

1. 新規性：V E / V D の領域からみて

- ・ 問題設定、適応領域の新しさがあるか。
- ・ 発見、知見、事例の新しさがあるか。
- ・ 理論、実験方法、手法、調査法の新しさがあるか。
- ・ 要素、システム、用途、サービスの新しさがあるか。
- ・ 評価法、調査結果、デザインの新しさがあるか。

VE/V D の新規性の視点例

- * 機能分析に関する新手法の開発・提案など
- * 機能本位に基づくアイデア発想手法の開発・提案など
- * 代替案(設計案)の価値設計・保証に関する手法の開発・提案など
- * V E 教育や V E 管理に関する手法の開発・提案など

2. 有用性：V E / V D の領域からみて

- ・ 学術、技術、社会的課題に込んでいるか。
- ・ 実用化、改良、改善上の成果があるか。
- ・ 技術移転、波及効果、啓発効果があるか。
- ・ 理論や方法の拡張、体系化、視点の転換の成果があるか。
- ・ 利用効果、導入過程、実態調査に有用であるか。

VE/V D の有用性の視点例

- * 機能分析に関する手法の工夫など
- * 機能本位の創造思考(アイデア発想)法に関する工夫など
- * 代替案(設計案)に価値保証に関する工夫など
- * V E 教育や V E 管理上の工夫など

3. 適性：以下の要件を満たし、論文として完結していること

- ・ 内容に誤りやあいまい性がない。
- ・ 研究目的が明確に述べられている。
- ・ 論旨の展開が明確である。
- ・ 研究成果の意義が明確に述べられている。
- ・ 従来研究との関連が明確に述べられている。
- ・ 関連する文献が適切に引用されている。
- ・ 図表、文体が簡潔かつわかりやすい。
- ・ 実験条件、方法が明確に述べられている。
- ・ V E (価値工学) 領域との関連が深く重要度が高い。
- ・ 将来性の期待される研究である。

主に上記評価項目により総合的に審査の上、入選の可否を厳正に判断いたします。

以上